

【報道発表資料】

新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する緊急アンケートの結果について

当協会は山梨県の開業保険医を中心とする医師・歯科医師 約 400 人（医科約 300 名、歯科 100 名）で構成する団体です

当協会では、5 月 12 日より 5 月 20 日まで、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する緊急アンケート」を実施しました。

新型コロナ感染症が拡大している下で、医科・歯科ともに患者の受診動向に変化が生じ、医療機関の日常診療機能の維持、経営に大きな影響が及んでいる実態が明らかになっています。

こうした問題についてアンケートの結果をご紹介しますとともに、医科・歯科医療機関の要望について、ご紹介いたします。

日 時 2020 年 6 月 17 日（水）16 時～
会 場 山梨県保険医協会（甲府市朝気 1-3-26）
出席者 山梨県保険医協会 会長 長田高典
副会長 梅北和一
事務局長 伊藤龍吾

【この件についての連絡先】

山梨県保険医協会

事務局長 伊藤龍吾

e-mail ryogo@yamanashi-hk.jp

TEL 055-227-5434

FAX 055-227-5435

保険医の経営と権利を守り、地域で住民の要求に応える医療をめざす
医師・歯科医師の団体

山 梨 県 保 険 医 協 会

〒400-0862 山梨県甲府市朝気 1-3-26

TEL 055-227-5434 FAX 055-227-5435

新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する緊急アンケートの結果について

2020年6月17日
山梨県保険医協会

アンケートの概要

山梨県保険医協会では、5月12日より5月20日まで「新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する緊急アンケート」を実施しました。

アンケートは医科歯科ともに当協会会員の中でFAXの分かる会員に送信し、FAXで回答をいただきました。

医科は218件に送信し84件の回答、(回答率38.5%) 歯科は89件送信し16件の回答(回答率17.9%)でした。

「患者数」 8～9割の医療機関で減少し、3割の医療機関で30%以上減少

4月の診療実績では、医科医療機関の91.7%、歯科医療機関では81.3%で、患者数が前年同月より減少しています。「減った」との回答のうち、およそ3割の医療機関で昨年4月比で30%以上減少しています。

「保険診療収入」 7-9割の医療機関で減少、4分の1の医療機関で30%以上減少

4月の保険診療収入も、医科医療機関で91.7%、歯科医療機関で68.8%、前年同月より減少しています。「減った」との回答のうち、およそ4分の1の医療機関(医科26%、歯科27.3%)で、30%以上の減少となっています。

4月分のレセプトは6月の支払となります。6月以降の医療機関の資金繰りに大きな影響を及ぼすことが今から予測されます。

個別の医療機関の存続はもちろん、地域医療と国民の健康を確保する面のためにも医療機関の減収分を補填する緊急の手当が求められます。

マスク等依然として不足 歯科4割超で防護服「在庫なし」

物資については、医療用マスクは依然として不足の状況が続いています。「既に在庫なし」も含め、「在庫1カ月以内」の医療機関が医科歯科で4割超となっています。

他の物資も不足しており、手指消毒剤については、医科64.4%、歯科56.3%で、在庫分は1月以内か既に在庫がない状況です。医療用グローブについては、歯科は、75%で充足していますが、医科は、54.8%で在庫1月以内か既に在庫がない状況となっています。特に防護服は「在庫なし」が医科で25%、歯科では43.8%の医療機関が「在庫なし」となっています。

医療機関が万全の感染防止策をとれるようにすることは、患者さんの不安や受診控えの解消につながります。

「風評被害」 医療従事者への被害をなくせ

風評被害については、8割近くの医療機関で「ない」と回答がありましたが、14.3%の医療機関で「ある」と回答しました。「ある」と答えた医療機関の具体例は深刻です。「うわさ」や「デマ」は新型コロナウイルスへの情報不足による恐怖感の表れです。

そもそも医療機関は、どの施設よりも感染防止対策を行っていることを、国民に知らせ風評被害が起こらないための広報をするべきです。

「損失補償」「人件費補助」の要望が4割超

4分の3の医療機関が、国・自治体による支援策の創設・拡充を要望しています。特に、「損失への補償」は32%、「人件費の補助」の要望は26%となっています。

「患者の症状悪化」を懸念 「経営の継続が大変」な医療機関も

自由記載欄には、患者さんへの影響として「受診控えによる症状悪化」を懸念する声が出ています。また、医院経営の点からは「経営の継続が大変」との声も寄せられています。

「第2波・第3波」に備え、医療機関の立て直しを

「医療崩壊」とも言われる状況の中で、感染症患者を受け入れている医療機関はもちろん、地域で第一線医療を担っている一般病院、医科・歯科診療所でも感染拡大防止のための費用増や患者減により、日常診療の継続が困難になっています。

今後、「第2波・第3波」の拡大も予想されます。

地域医療は病院・一般診療の連携、役割分担で営まれています。個別医療機関が立ち行かなくなれば、その地域の医療提供体制にも影響します。

感染拡大に適切に対応するためにも、医療機関の立て直しが急務であり、当面、減収分の公的補填など医療機関への緊急の助成が必要です。

コロナ感染症への対応のための第2次補正予算が成立しましたが、今回のアンケート結果から明らかになったことを踏まえ、地域医療を担う医科・歯科医師として下記の施策の実現を強く訴えます。

記

一、医科・歯科医療機関が経営に破綻を来さないよう、

① 4月、5月診療分の減収額に応じた医科・歯科医療機関への概算払いや支援金の制度を設けるなどの措置を早急に行うこと

② 6月診療分以降についても、概算払いや診療報酬の引き上げなど医療体制確保のための措置を速やかに行うこと

一、受診抑制によりガンなどの重大疾患、慢性疾患、歯周病の悪化などが危惧される。国民に適切な受診を促すよう政府が新聞、テレビ等を活用してアナウンスすること

一、医療用マスクや消毒薬、防護服等の防護用品を国の責任で確保し、すべての医療機関に早急に供給すること。

以上

概要

調査機関 2020年5月12日～5月20日

集計サンプル数 100件

医科 84件【病院 6、診療所 75（無床診 70 有床診 5）、無回答 3】

歯科 16件

外来患者数

医科（対前年4月比）

変化なし 6.0%

増えた 0%

減った 91.7%

無回答 2.4%

歯科（対前年4月比）

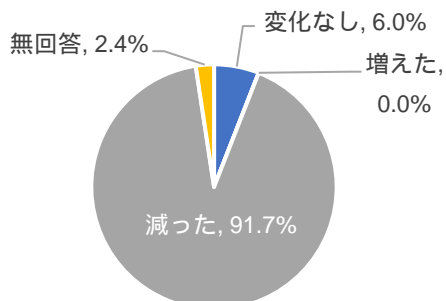
変化なし 6.3%

増えた 12.5%

減った 81.3%

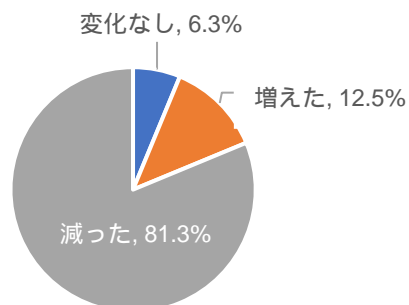
無回答 0%

【医科】外来患者数



■ 変化なし ■ 増えた ■ 減った ■ 無回答

【歯科】外来患者数



■ 変化なし ■ 増えた ■ 減った ■ 無回答

【医科】減った割合

～30% 71.4%

～50% 22.1%

～70% 5.2%

70%～ 0%

無回答 1.3%

【歯科】減った割合

～30% 76.9%

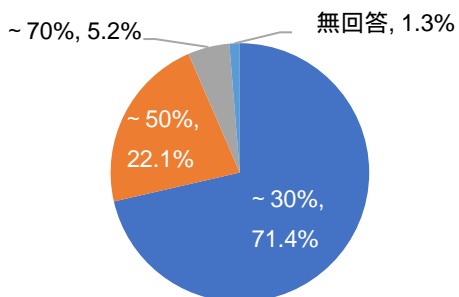
～50% 23.1%

～70% 0%

70%～ 0%

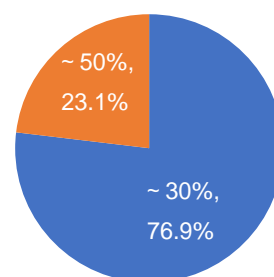
無回答 0%

【医科】外来患者数の減った割合



■ ～30% ■ ～50% ■ ～70% ■ 70%以上 ■ 無回答

【歯科】外来患者数の減った割合

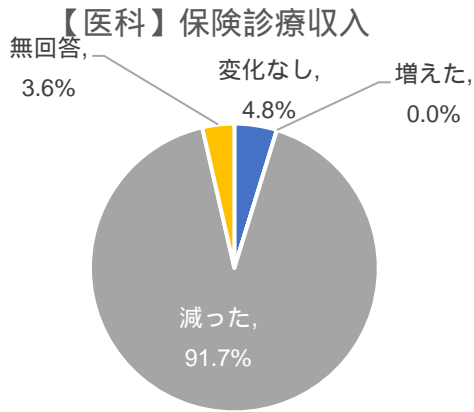


■ ～30% ■ ～50% ■ ～70% ■ 70%以上 ■ 無回答

保険診療収入

医科（対前年4月比）

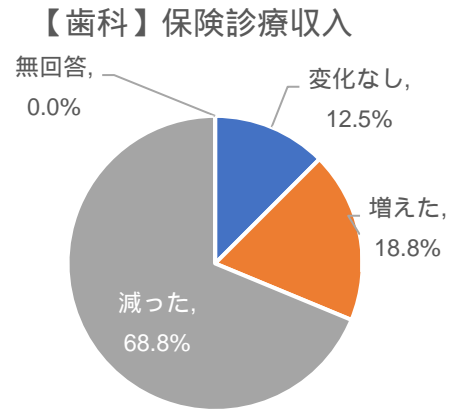
変化なし	4.8%
増えた	0%
減った	91.7%
無回答	3.6%



■ 変化なし ■ 増えた ■ 減った ■ 無回答

歯科（対前年4月比）

変化なし	12.5%
増えた	18.8%
減った	68.8%
無回答	0%



■ 変化なし ■ 増えた ■ 減った ■ 無回答

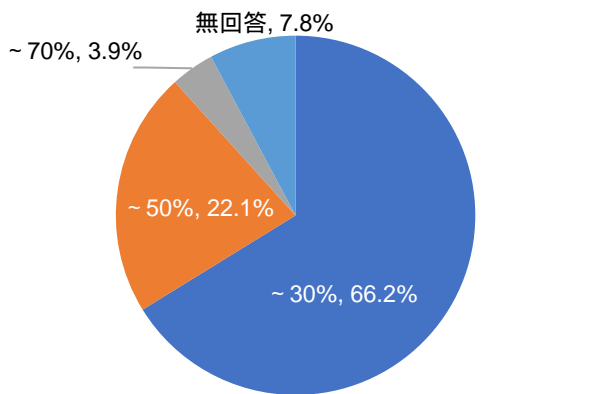
【医科】減った割合

～30%	66.2%
～50%	22.1%
～70%	3.9%
70%～	0%
無回答	7.8%

【歯科】減った割合

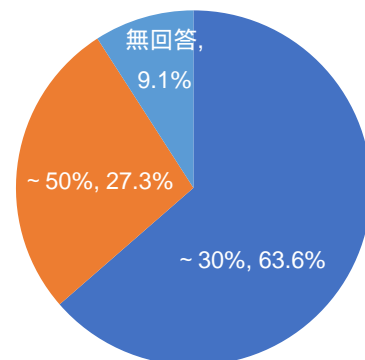
～30%	63.6%
～50%	27.3%
～70%	0%
70%～	0%
無回答	9.1%

【医科】保険診療収入の減った割合



■ ～30% ■ ～50% ■ ～70% ■ 70%以上 ■ 無回答

【歯科】保険診療収入の減った割合



■ ～30% ■ ～50% ■ ～70% ■ 70%以上 ■ 無回答

物資

①医療用マスク

医科も歯科も半数の医療機関で充足しているが、医科 44%、歯科 43.8%で、在庫分は1月以内か既に在庫がない状況。

②消毒剤

手指消毒剤については、医科 64.4%、歯科 56.3%で、在庫分は1月以内か既に在庫がない状況。

③医療用グローブ

医科は、54.8%で在庫1月以内か既に在庫がない状況。逆に歯科は、75%で充足している。

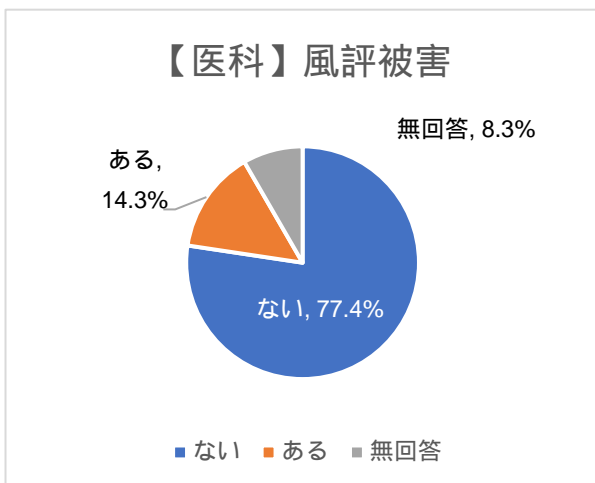
④防護服

医科 61.9%、歯科 81.4%で、在庫1月以内か既に在庫がない状況。

「既に在庫がない」との回答は、医科 25%、歯科 43.8%

	充足	在庫1カ月以内	在庫半月以内	在庫1週間以内	既に在庫なし	無回答
医療用マスク(医)	54.8%	32.1%	8.3%	2.4%	1.2%	1.2%
医療用マスク(歯)	56.3%	43.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
手指消毒剤(医)	34.5%	42.9%	13.1%	3.6%	4.8%	1.2%
手指消毒剤(歯)	43.8%	50.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
グローブ(医)	39.3%	34.5%	13.1%	4.8%	2.4%	6.0%
グローブ(歯)	75.0%	18.8%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
防護服(医)	21.4%	19.0%	2.4%	15.5%	25.0%	16.7%
防護服(歯)	12.5%	18.8%	6.3%	12.5%	43.8%	6.3%

風評被害など



【具体例】

3月に春日居の整骨院にコロナに罹患した方が通院したということがあったが、それが当院だとうわさが立ち迷惑を被った▼被害ではないが、かかりつけ医及び基幹病院にて発熱で受診するも、月曜日午前なのにかかりつけ医不在と基幹病院は担当医不在と診療拒否され来院した▼医療従事者に対して、保育園へ子供を預けた時など▼タクシーの運転手が当院でコロナが発生したとデマを流した▼患者数の減少自体、風評被害だと思う▼当院が地域で唯一の総合病院、そのため現時点(まだ院内感染なし)では風評被害なし、ただし院内感染が発生すると風評

被害の可能性あり▼東京から来てもらっているDrの県外ナンバーに▼病院に来るのが怖いと言われた▼スタッフの子供の通園拒否▼自院でコロナが出たという電話があったため、そのほかの患者がこなくなった▼受診を控えたい▼以前、当院受診患者でCOVID-19の方がいらしたため受診控えが増えた▼「近くで感染者が出たと聞いたので」という理由で直近でのキャンセルがあった(事実と異なるにもかかわらず)

国や自治体への要望

(複数回答)

- 損失への補償 (給付金) 32.0% (医科 28.6% 歯科 50.0%)
- 人件費への補助 26.0% (医科 26.2% 歯科 25.0%)
- 家賃等への補助 5.0% (医科 6.0% 歯科 0%)
- 資金繰りの補助 23.0% (医科 20.2% 歯科 37.5%)
- 納税等の猶予措置 18.0% (医科 19.0% 歯科 12.5%)
- その他 4.0% (医科 4.8% 歯科 0%)
- 無回答 25.0% (医科 23.8% 歯科 31.3%)

自由記載欄に寄せられた声

【医科】

コロナによる患者さんの受診控え 症状悪化懸念

- ・軽い風邪の方の受診が減っているのは仕方ないが、重症化して来られるのは困る。
- ・内視鏡検査ができないので非常に困っています。
- ・受診控え多い→不要不急のためか?
- ・花粉飛散が去年の1/10、インフルエンザもここ数年で最低の上、新型コロナウイルスの初期症状に、嗅・味覚症状があり、感染心配以外の要素となって減少した。勿論患者側の家計悪化もあるが。
- ・長期処方を要求される。
- ・乳児健診やワクチンは、いつも通り受けるよう話をしていますが、親の不安度により変化します。
- ・新型コロナウイルスによる感染が恐ろしいため来院を控える人が多い。
- ・1回に処方する薬の量を多くしてほしいという人が増えた。
- ・受診せず薬だけほしい。訪問診療は良いが訪問看護は中止(月単位)してほしいとの声がありました。
- ・滞在時間をできるだけ短くしているため、検査ができない。
- ・当院は眼科診療で、コロナの診療はしていませんが、来院を控える患者さんが多くなっています。(緑内障の患者さんも、投薬のみの希望が多い。)
- ・血液透析専門クリニックなので、そのようなことはありません。
- ・5月になってから少し落ち着きましたが、3月の山梨のコロナ発生から5月の連休まで激減でした。そのコロナに罹患した患者さんが整骨院に言ったようなのですが、それが当院であるとのうわさが立ち電話の問い合わせがすごかったです。
- ・やはり高齢者や慢性疾患の方を中心に減っています。

医院経営への影響 「経営継続が大変」との声も

- ・受診控えあり、売り上げ減少あります。
- ・秋から冬に第2第3波が来るといわれています。インフルエンザの時期でもあり、おそらく今春と同じくインフル検査は禁止されると思う。検査なしであってずっぽうでインフルも治療しなければならなくなるし、コロナの感染も怖いし、収入も減るし、まさに「暗闇を手探りで歩かなければなりません」。このストレスにどこまで耐えられるでしょ

うか。

- ・マスク、予防衣、フェイスシールドで対応しているため断られる事はありません。これらの購入費用には点数も補助も出ませんから、購入費用がかさんだ事が悩みでしょうか。
- ・当院が完全予約制のため、前日まで様子をみての延期・キャンセルとなった場合に他の患者さんの治療をうけられず、治療・経営共に苦産している。
- ・感染防止対策として使用する感染防護具一式は2400円かかります。しかし、そのための対策費はなく、病院の持ち出し。感染対策に莫大な経費がかかり経営を大きく圧迫。患者も受診しないようにコントロールするので大きな赤字や損益を生んでいる。昨年並みの収益での補填をしていただきたい。
- ・このまま外来患者減少すれば助成金申請する予定。
- ・収入減であるが、半分ではないので援助が得られない。
- ・収入が減っているのに職員にボーナスを出す必要があるのか。減額するとしたらどのくらい減額したら我慢してくれるのか悩んでいます。
- ・収入減により経営継続が大変です。

物資の不足 まだまだ足りない物資

- ・診療に必要なガウン・マスク・ゴーグル・アルコール等優先的に欲しい。
- ・マスク、防護服の現場支給。
- ・消毒用アルコールがありません（問屋に）。
- ・消毒剤が確保できない。
- ・非接触型体温計が入手できないでいます。

医療提供体制、PCR 検査など

- ・発熱外来に電話していても検査してくれない（熱が下がったなどで）。
- ・お互いに緊張します。
- ・在宅医療を受けている者は、指定の医療機関への受診自体がかなり困難。在宅医にもPCR 検体採取の指定医療機関を担わせてほしい。
- ・医師が必要と判断したら、検査はしてほしい。
- ・診療所から直接検査依頼できるようにしてほしい。
- ・通常と異なる病態は新型コロナウイルスが疑う例は全例検査してもらいたい。
- ・保健所につながらない。はっきりとして説明がない。
- ・一度収束したならば、抗体検査をしておきたいのですが、どのようにしたらよいでしょうか。
- ・対象をどの程度絞っていくのかが供給との関係で難しい。地域限定の一定の指針があると良いが。どこまでかかりつけ医が対応するかの分水嶺は時期により変わるが、山梨の経験と実情での指針が提示されるとよい。
- ・熱が微妙だと行ってもらえない。
- ・患者より依頼があったので紹介状を書いた。電話を保健所にするも内容も見ず否定された。
- ・自院での検体採取を依頼されましたが、防護服の準備ができず困惑した。
- ・山梨では医師の判断を重視して、断られることが少ない。
- ・感染拡大初期はほとんど断られましたが、最近ではほぼできます。
- ・政府が保険適用にしたと宣伝したので希望者が集まり苦労した。

- ・当院医師が直接連絡したが拒否。保健所に電話しても根拠なしに風邪ですねと言われたという話を複数耳にする。
- ・相変わらず検査してくれないという患者さんが多い→かかりつけを受診するように指示されるか数日様子を見るように言われるそうだ。
- ・基準が不明確。
- ・患者さんから電話した時は断われたが、医師からの電話では応じていただけました。
- ・検査を医師の判断でできるとありがたい
- ・日常の診療でもストレスが多い。患者さんの過剰な不安に対して、適切な(?)情報や自己管理等の助言で時間がとられる。特に上気道感染症状のある方に対しては尚更。
- ・1人医師体制での不安、スタッフの体調(精神的・肉体的疲労)、電話再診やコロナ疑い患者さんの対応に手間・時間がかかるが、報酬は低い。
- ・救急当番時にコロナ対応で問題が生じたときには保護してもらいたい。

国・自治体への要望

- ・開院以来30年余りがたつが、一番大変な時を過ごしている。先が見えないので不安だし、職員を守らなければならない責任もあるので、本当につらい日々である。早くワクチンの開発がされ、検査が全国に行き届くようにしてもらいたい。
- ・税率を1~2年間免除するなどの医療機関へのサービス向上をすべき。
- ・医療・介護分野での感染リスク、日常業務をしていく上での費用、危険を考えて支援金が必要と思う。
- ・厚労省・政府の指示が二転三転すること
- ・感染対策のために購入した物品費を補助してほしい。
- ・緊急時に診療に専念できる器具・備品及び精神的・資金的な配慮が欲しいです。
- ・ショートステイを長く利用するものの訪問診療について、ショートステイ利用前30日以内に自宅で訪問診療を受け、在医総の算定をしているものは、ショートステイ利用開始~30日間訪問診、往診を受けられる(末期癌以外)というルールがありますが、コロナのためにショートから帰れず、30日以上のロングショートになった方について医療が宙ぶらりんになっています。30日をこえても訪問診、往診可のなるような仕組みになると有難いです。
- ・政権の能力の低さで、患者さんは勿論、我々医療関係者も翻弄され今の所「結果オーライ」で良いかもしれませんが、「有識者(?)」と称する方々も、医系技官も最新の医療状態、臨床を知らないで、不安極りない。日本の医療レベル、政治レベルの低さを思い知りました。
- ・医療用マスクと同様に手指消毒剤の統制と、分配を行政に希望します。

【歯科】

▽口腔機能低下で健康リスク

- ・高齢者の受診控えにより、口腔状況の悪化。
- ・施設等の訪問は、何ヶ所か中断しています。先日、疼痛のため訪問希望があり伺いましたが、口腔内は悪化していました。
- ・急性症状の患者が増えている。

患者減で経営に打撃

- ・クリーニングの患者さんはコロナが落ち着いてから受診したいとの方がいらっしゃいました。
- ・定期管理をしている患者の受診控えが多い。保険診療(SPT)で行っている場合、再来院時の保険請求がスムーズに通るか心配。訪問診療については、こちらから申し出て延期をしてもらっています。
- ・手術の件数が激減し、収入の大幅減収。
- ・歯医者が一番感染しやすいと SNS などと言われ、患者数が減少した。
- ・患者数の減少は、50%に近い状態です。スタッフは交代制にしています。感染予防は、最善をつくしています。
- ・メンテの患者が減り、平均点が高点数になる事が不安です。

早急な補償を

- ・いつまで続くかわからない中で収益の減少により、経営破たんしかねない状況。国には、早急な補償を求めたい。
- ・助成金(補助金)は、給付までに時間がかかるし、申請の手間もかかり、援助としてはふさわしくありません。税金(特に消費税 10%→0)等の調整が一番早い援助です。国は意図的に援助をさけているとしか思えません。

以上